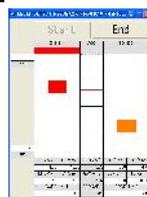


レベル検出フィードバック装置

MaP1992LDF



1 chの入力信号(重心動揺計のY信号など)のレベルがある範囲の値になったことを検出し、2系統の検出信号の出力並び、検出信号に同期したビープ音とLEDの点灯を行うものです。範囲は2帯域 (ZONE) 設定でき、L1~H1 or L2~H2 の間とします。Windows PCと組み合わせてご利用いただけるものです。

●主な仕様

入力信号 1ch ±10(V) (重心動揺計が10(cm/V)の場合、±100(cm))

範囲レベルの設定: L1・H1、L2・H2 2組4レベルをデジタル値で設定

1chのCAL換算値による設定ができます。

設定時にロストフォーカスすることで、相互に換算して電圧と換算値を表示・設定します。

出力信号 フィードバックサウンド出力 (3.5φミニジャックによるオーディオ出力端子:ステレオ出力左右同音)

各ゾーンごとに2種類のブザー音を発生します。

各ブザー音の ON/OFF 機能 (左右の音量を独立して調整できます)

矩形波周波数の設定可能 500~2000 (Hz)

PC や外部スピーカーに接続して音を鳴らしてください。

3系統:2ゾーンとCOM(コモン)に対応 TTL(5V)

検出時にON(正論理)で出力 (BNC(J)端子) (PCのソフトで変更可能)

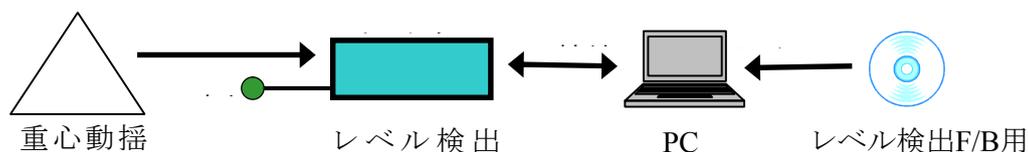
(内部的には、内部音ゲート用=出力信号、本体LED点灯用、外部LED点灯用、予備 ×2系統)

表示LED 本体モニタ用 検出 ZONE1 (赤)、検出 ZONE2 (橙)、外部 LED 表示ボックス

電源 USB 接続によるバスパワーを利用

本体サイズ W100×H38×D130 (mm) (突起物を除く)(プラスチックケース)

付属品 本体に固定接続(USB コード、外部 LED)、通信用ドライバソフト(CD-ROM)



※使用方法

④ MaP1992 プログラムを START するまでは音が鳴りますので、音のボリュームは小さくして始めて下さい。

① MaP1992 プログラムのインストールを行う。(¥MaP2000¥Setup***の実行、¥MaP2000¥Auto. bat の実行、¥MaP1992 フォルダへの¥c:直下へのコピー、¥c:¥MaP1992¥MaP1992***. exe のショートカットをデスクトップに作成、¥c:MaP2000¥inputmonitor. exe のショートカットをデスクトップに作成)

② 機器間の接続をして下さい。(USB、オーディオ出力、入力信号、必要に応じて出力信号)

③ AD 変換のボードとデバイス番号を設定する。(インプモタプログラムの Setup 画面に記載されている Base Setting で AD Board は MaP281[± 10.41] を選択し、Device Name. と同じ番号が、¥c:¥MaP1992¥MaP1992. ini ファイルに記載の番号と同じかどうかを確認してください。違えば訂正の上、上書きしてください。)

④ CAL 設定をインプモタで行います。CAL Table において 1ch cm 104.1 0 8192 0 を設定してください。若しくは、LOAD COND にて For_MaP1992_#130904. set を読み出して STORE をクリックして下さい。

⑤ START をクリックして開始、レベルは数値入力、若しくはマウスによるドラッグ操作で行えます。

⑥ END にて終了

※ 薬事承認器具ではございません。基礎医学研究機器としてのご利用に限りご利用でき臨床検査としてのご利用できません。

※ 改善のため概観ならび仕様は変更される場合がございます。